

時に最後の弟子をとりました。

今も息づく 樽づくりの技術

「漏れない樽を誰よりもたくさ

ん作るといふ樽職人としての心構えを教えていただきました」と話すのは、技術継承者である萩原幹雄さん。栃木県で2代続く樽屋に生まれた萩原さんは、玉ノ井さん

から技術を学んだあと、地元に戻り、栃木市の市民文化賞を受賞、平成15年には、全国伝統的工芸展で入賞するなど現役の樽職人として、現在も活躍されています。



足の指で押さえながら
側板をはめていく

がわいた
側板を組み合わせる「ゆ結い立て」作業(写真は玉ノ井さん) 写真提供: 野田市郷土博物館



萩原さんのもとへ修理に戻ってきた樽太鼓

「樽を作りたいです」と今後の抱負を語っていただきました。

「玉ノ井さんが作った樽太鼓が製作から20年が過ぎる時期になっているため、現在、私のところへ修理の依頼が全国から来ます。ばらしながら感じるのは、たがの削り方とか、玉ノ井さんの息遣いですね。樽太鼓を通して玉ノ井さんからは今もいろいろ教わっている気がします」と笑顔で話します。

「樽技術は奥が深いです。まだまだこれからも精進して、よりよい樽を作りたいです」と



萩原幹雄さん